

がん対策推進基本計画のイメージ（たたき台）修正案

p.1

はじめに

1 がんをめぐる現状

【第2段落】

また、厚生労働省研究班の推計によれば、生涯のうちにがんにかかる可能性は男性の2人に1人、女性の3人の1人とされている。したがって、身体的苦痛のみならず、がん告知や治療選択等に伴う心理的苦痛、がん手術後遺症がもたらす社会的苦痛を伴う慢性病として、生活習慣病や長い経過を辿る慢性病の継続的支援や手術後も引き続き必要な日常生活の調整に関する支援が求められている。

【第4段落】

こうしたことから、がんは、「国民病」であると呼んでも過言ではなく、国民全体が、がんを他人事ではなく、身近なものとして捉える必要性がより一層高まっている。

一方、がん患者の約半数が、治療説明時もしくは治療方針決定時のいずれかの場面において不満や納得を感じている「がん難民」¹となっている状況も存在し、セカンド・オピニオンも含めた患者への情報提供の重要性も指摘されている。したがって、医療を受ける機会が均等に与えられ、国民が納得できるがん医療が望まれる。

p.4

第2 がんに関する目標

2 がん対策の推進に当たっての目標

（1）全体目標（10年間）

- ・ がんによる死亡者の減少（年齢調整死亡率）
- ・ 身体的・精神的・社会的苦痛の緩和による包括的な患者満足度の向上²

（1）個別目標

- ・ 5年生存率の改善
- ・ がんの予防に関する目標
- ・ がんの早期発見に関する目標

¹ がん難民は、がん患者128万人の53%（68万人）、狭義でも27%（33万人）。がん難民は非がん難民に比べ保険診療費5割増、総医療費7割増。がん難民解消で、医療費は年間5200億円（広義）、3500億円（狭義）節約される計算（出展：医療政策機構、がん患者会調査報告『がん難民』解消のために、2006/12/7）

² 全てのがん患者の苦痛の軽減では、漠然としており、疼痛等の身体的苦痛のみならず、がん告知や治療選択等に伴う心理的苦痛、がん手術後遺症がもたらす社会的苦痛を緩和し、包括的な患者満足度の向上を目標とする

- ・放射線療法、化学療法の推進及び医療従事者の育成に関する目標

→集学的治療における専門領域の異なる（外科、内科、放射線科等）医師、ならびにがん医療にかかわる多職種や在宅療養支援診療所を連携・調整し、患者の窓口となる専門性の高い看護師（がん看護専門看護師・がん関連認定看護師）をがん拠点病院に配置（相談支援センターには必置）（別添資料1）

- ・診療ガイドラインの作成に関する目標
- ・緩和ケアに関する目標
- ・在宅医療に関する目標

→緩和ケア病棟と在宅療養支援診療所を連携・調整する専門性の高い看護師（ホスピスケア認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師（別添資料1-7）・16日間の緩和ケア養成研修修了者等（別添資料2）を緩和ケア外来に配置

- ・がん登録に関する目標

p.10

② 取り組むべき施策

【第2段落】

在宅においても適切な緩和ケアを受けることができるように専門的な緩和ケアを提供できる外来を拠点病院に設置していくとともに、がんに関して専門性の高い医師や看護師を配置していく。

p.14

【5段落】

拠点病院を中心として、緩和ケア病棟、緩和ケア外来³、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所等が連携すること等により、地域ごとの連携強化を図っていく。

p.19

第5 その他

1 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化

【第2段落】

このため、関係者等は、がんの専門医および専門性の高い看護師等の育成については、認定に係する学会⁴や専門職団体等⁵が協力すること、また、学会や専門職団体、医療関係団体（別添資料3）等との協力により、解説資料の作成等を通じて患者や家族における診療ガイドラインの理解を助けることができるように努めるなど、有機的連携・協力の更なる強化に努めるものとする。

³ 上記に、在宅においても適切な緩和ケアを受けることができるように専門的な緩和ケアを提供できる外来を拠点病院に設置していくと書かれており、緩和ケア外来との連携は必至である

⁴ 日本看護協会は、日本がん看護学会（参考資料1）と協働し、専門性の高い看護師を育成している

⁵ 専門性の高い看護師において、1995年に内外の総意を得て、資格認定を日本看護協会に一本化してきた経緯と実績があり、加えて、がん看護に関する研修を実施している（別添資料3）

日本看護協会における 専門性の高い看護師の育成

別添資料



(社)日本看護協会常任理事
廣瀬 千也子

資料1-1

がん看護専門看護師の認定

登録者: 79名(平成19年4月現在)

<認定教育機関>

- 千葉大学大学院
- 聖路加看護大学大学院
- 東京女子医科大学大学院
- 北里大学大学院
- 三重大学大学院
- 大阪府立大学大学院
- 兵庫県立大学大学院
- 高知女子大学大学院
- 琉球大学大学院

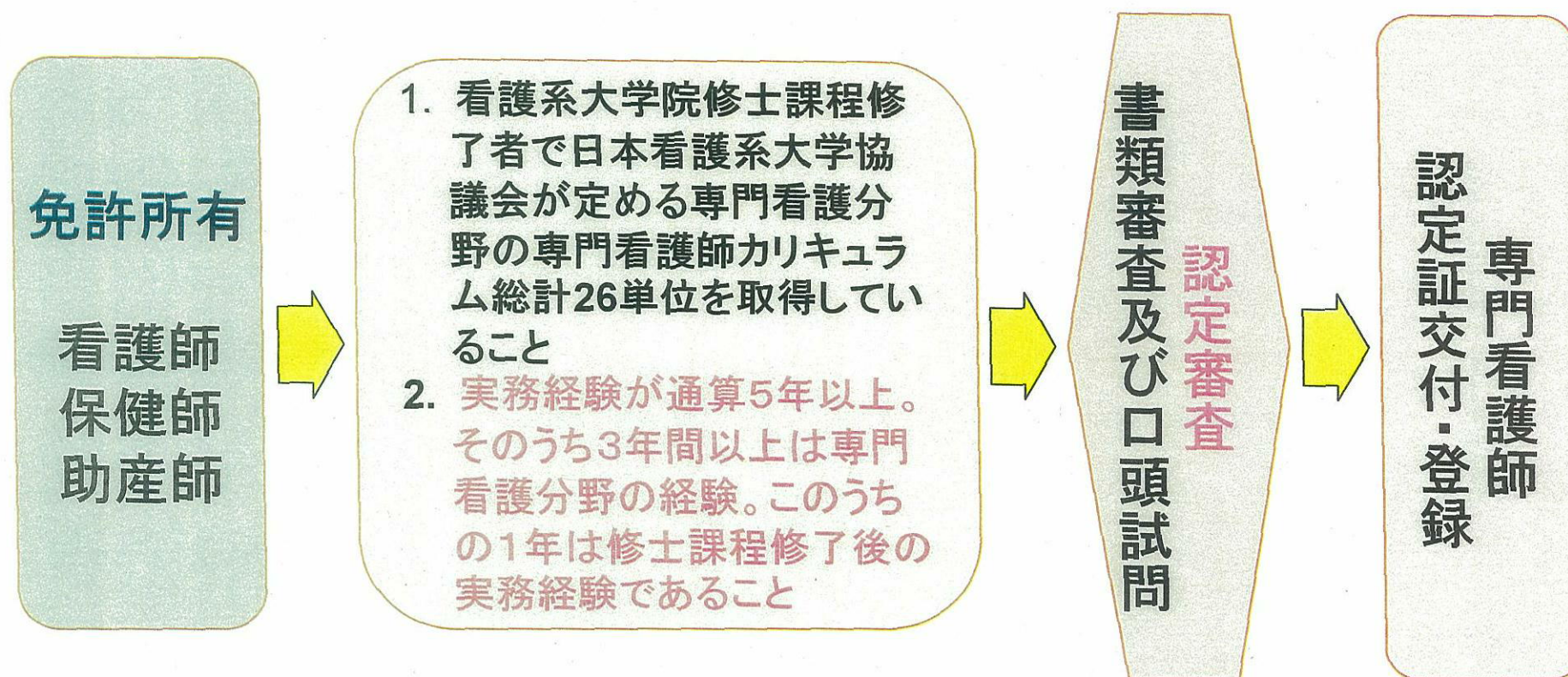
資料1-2 **がん看護専攻教育課程**

教育目標

1. がんに関する専門的知識を深め、的確な臨床判断および熟練した高度な技術を用いてがん患者および家族に対して看護を実践できる。
2. 社会に対し、がんの予防および早期発見のための教育・啓発および相談活動ができる。
3. 医療・看護職者に対し、がんの予防および早期発見のための教育・啓発および相談活動ができる。
4. がん患者を取り巻く医療提供システム内を調整することができる。
5. がん患者の人権を擁護するために適切な倫理的判断を行い、判断に基づいた態度と行動をとることができる。
6. がん看護に関する専門的な知識や技術を深めるための研究を積極的に実施することができる。

出典：平成18年度版 専門看護師教育課程基準 専門看護師教育課程審査要項，日本看護系大学協議会

専門看護師教育と認定システム



5年毎の更新審査

資料1-4

がん関連認定看護師の認定

がん性疼痛看護認定看護師の認定

登録者:222名(平成19年4月現在)

ホスピスケア認定看護師教育と認定

登録者:299名(平成19年4月現在)

＜教育専門課程＞日本看護協会看護研修学校

がん化学療法看護認定看護師教育と認定

登録者:147名(平成19年4月現在)

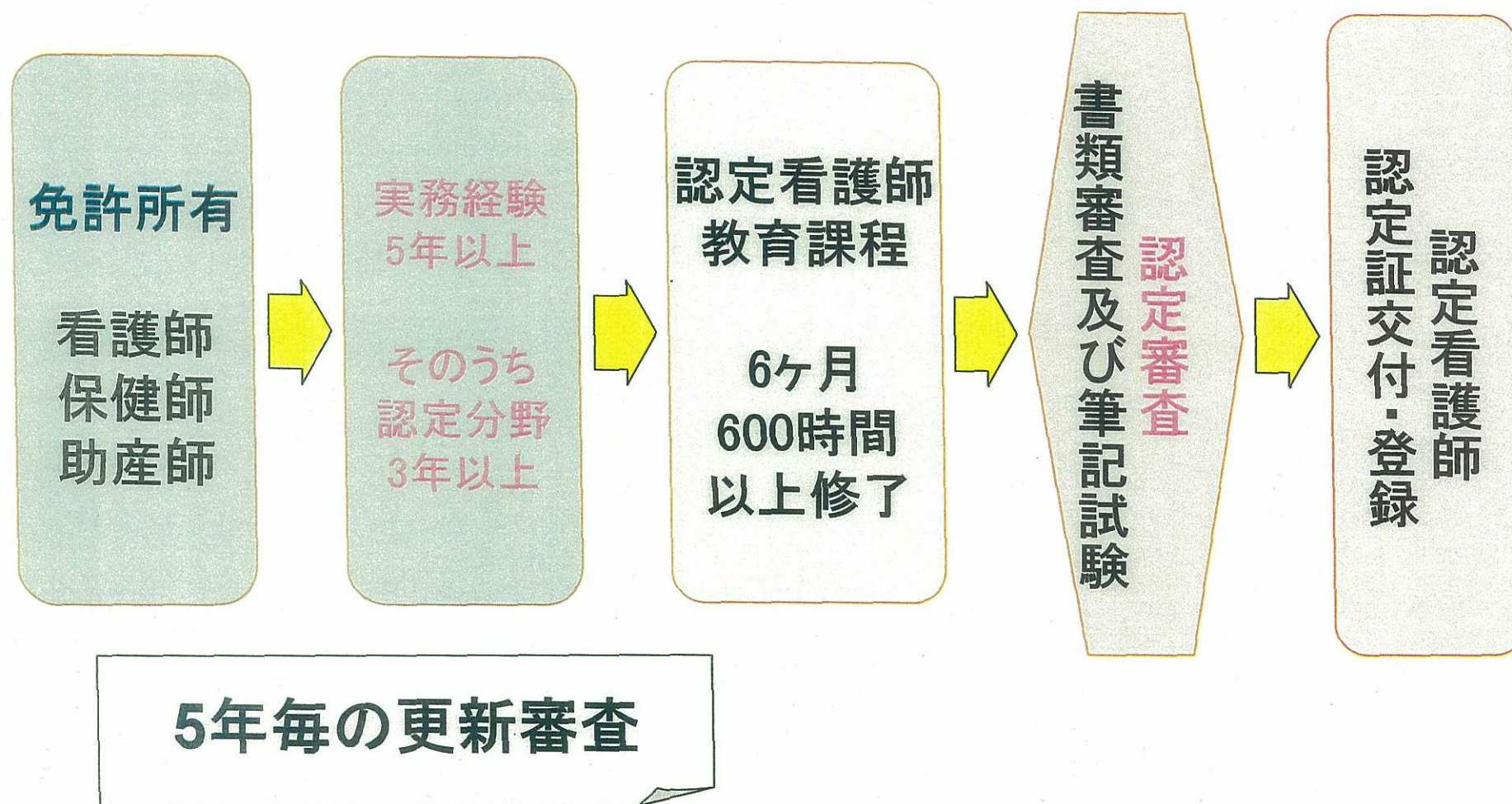
＜教育専門課程＞日本看護協会神戸研修センター

乳がん看護認定看護師の認定

登録者:20名(平成19年4月現在)

資料1-5

認定看護師教育と認定システム



資料1-6

がん関連認定看護師教育専門課程

教育機関名	認定看護分野
日本看護協会看護研修学校認定看護師教育専門課程	ホスピスケア
日本看護協会神戸研修センター	がん化学療法看護 ホスピスケア
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	がん性疼痛看護
国立看護大学校研修部	がん性疼痛看護 がん化学療法看護(休講)
神奈川県看護協会認定看護師教育課程	ホスピスケア
埼玉県立大学教育研修センター	ホスピスケア
北海道医療大学認定看護師研修センター	ホスピスケア
千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センター	乳がん看護
日本赤十字看護大学 看護実践・教育・研究フロンティアセンター	がん化学療法看護 ホスピスケア

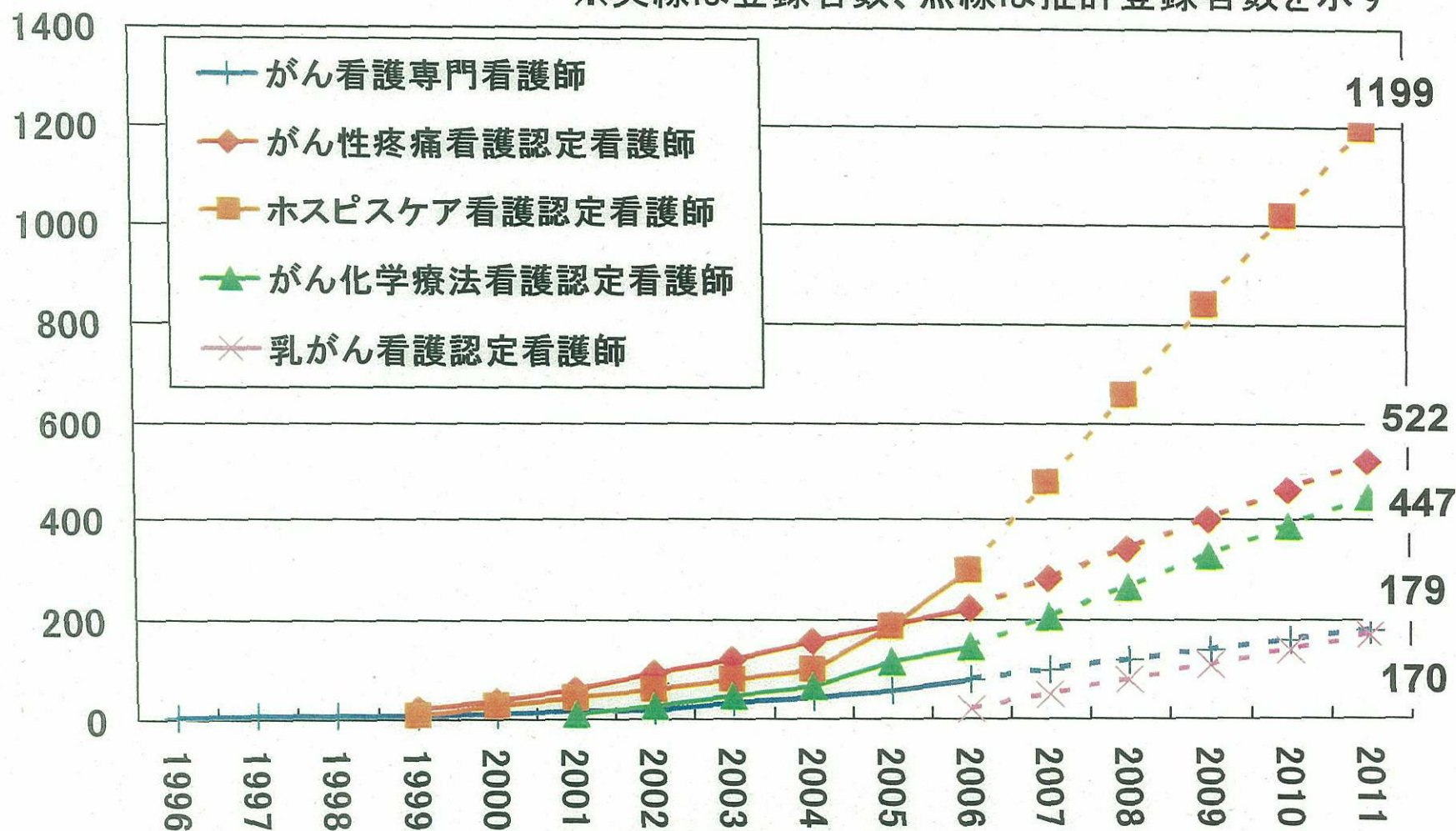
資料1-7

がん関連認定看護師の知識と技術

認定看護分野	知識と技術(一部)
ホスピスケア	・徹底した苦痛症状の緩和（疼痛及び進行がんに伴うその他の苦痛症状の緩和ーリンパドレナージ、呼吸理学療法、口腔ケア等） ・心理的・社会的・スピリチュアルケアを含む全人的ケア ・家族へのグリーフケア
がん化学療法看護	・がん化学療法薬の安全な取り扱いと適切な投与管理、副作用症状のマネジメント ・がん化学療法を受ける患者・家族のアセスメント及び、問題に対するマネジメント能力向上のための支援
がん性疼痛看護	・がん性疼痛の全人的ペインアセスメントと症状マネジメント ・薬物療法の適切な使用と管理及びその効果の評価
糖尿病看護	・血糖パターンマネジメント(血糖コントロール管理) ・フットケア（合併症予防） ・ケアシステム立案（集団指導や地域ネットワークシステムにおけるチームアプローチの促進）
乳がん看護	・乳がんの集学的治療及び治療に伴う副作用に対するケアとセルフケア確立に向けた指導 ・リンパ浮腫予防、症状緩和についての指導 ・ボディイメージの変容に対する心理・社会的問題に対する支援

資料1-8 “がん”関連専門看護師・認定看護師 年度別登録者数

※実線は登録者数、点線は推計登録者数を示す



資料1-9

がん看護専門看護師・がん関連認定看護師の分布 都道府県別登録者数

2007年4月現在総数

がん看護専門看護師(CNS):79名

がん関連認定看護師(CEN):688名

※H:ホスピスケア・C:がん化学療法・P:がん性疼痛看護・
B:乳がん看護

中国/四国

CNS:7名

CEN:65名 (H:32

C:19P:11 B:3)

近畿

CNS:22名

CEN:111名

(H:40 C:43

P:25 B:3)

東海/北陸

CNS:8名

CEN:65名

(H:32 C:14

P:18 B:1)

北海道/東北

CNS:1名

CEN:75名 (H:39

C:20 P:15 B:1)

九州

CNS:0名

CEN:45名

(H:18 C:13

P:11 B:3)

関東/甲信越

CNS:41名

CEN:327名

(H:138 C:38 P:142

B:9)

資料2

日本看護協会における 緩和ケアナース養成研修

開始年度：平成10年度／修了者数：669名

■ 16日間／看護教育研究センター

■ 16日間／神戸研修センター

主な研修内容：腫瘍学／緩和ケア／緩和医療／症状マネジメント／
進行がん患者の心理プロセス

施設実習：笹川医学医療研究財団ホスピスナース養成研修との協賛で
行われ、笹川医学医療研究財団指定の8施設のうち1施設を選択する。

【参加条件】実務経験3年以上、職場上司の推薦要、理論学習と施設実
習療法に参加可能で以下のいずれかに該当するもの。①ホスピスま
たは緩和ケア病棟勤務者、②開棟予定施設からの推薦者、③訪問看
護領域での緩和ケア実践者、④一般病棟での終末期患者の看護経験
者。①～④の順に受講決定を優先する。

【受講料】会員・非会員とも68,000円（日本財団補助金により）

資料3

日本看護協会における がん看護に関する研修計画

平成19年度 日本看護協会教育計画（期間/定員）

- がん患者の症状マネジメント(2日/120名)
- がん化学療法と看護(3日/120名・3日/140名)
- 一般病棟における緩和ケア(2日/120名)
- 疼痛マネジメントの困難ながん患者への対応(2日/120名)
- がんの集学的医療と看護(2日/120名)
- 地域社会でがんとともに生きる人々への支援(2日/120名)
- がん患者のセクシャリティと看護(2日/120名)
- 造血器腫瘍の治療と看護(2日/120名)
- 放射線療法と看護(2日/50名)

※文章内の資料については、当日持参します。

日本がん看護学会よりの意見

(たたき台) p5 2 治療の初期段階からの緩和ケアの実施 の3段落目

緩和ケアを実施していくために、緩和ケアに関する専門的な知識や技術を有する医師や看護師等の医療従事者を育成していく必要がある。

そのために、緩和ケアの領域で高度実践家として実績をあげているがん看護専門看護師等のリーダーが都道府県がん診療拠点病院との組織的連携を結び、緩和ケアに関する教育プログラムの均てん化を進めていく必要がある。

<上記を追記する根拠>

① がん看護専門看護師の貢献が期待できる：質・量両面から

2007年度 がん看護の高度専門職として約 100 名が活躍できる。

(2006 年度まで 79 名 +2007 年度 20 名予定)

2012 年度までに倍増する

<推計人数>250 名(100 名+教育認定施設 15 施設×2 名×5 年)

②「がん看護実践に強い看護師育成プログラム」がすでにでき、都道府県診療拠点病院を中心に実務研修がスタートしている：厚生労働省による「専門分野（がん、糖尿病）にける質の高い看護師育成事業」をうけ、がん看護専門看護師がリーダーとなって<がん看護実践に強い看護師育成プログラム（資料1）>が作成され、都道府県がん診療拠点病院を中心に実務研修がスタートされている。このプログラムを実施していく上でもがん看護専門看護師がリーダーとしてかかわっている。

2006 年度：23 都道府県で事業がスタート

2007 年度：47 都道府県に事業拡大予定

第5 その他

1. 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化

このため、関係者等は、がんの専門医およびがん看護専門看護師の養成については、がんの専門医認定ならびに専門看護師認定に関係する学会等が協力す

ること、また、学会は患者団体との協力により、解説資料の作成等を通じて患者や家族における診療ガイドラインの理解を助けることができるように努めるなど、有機的連携・協力の更なる強化につとめるものとする。

<上記を追記する根拠>

① がん看護専門看護師の養成については、日本看護協会認定部の実績資料をお願いします。

② 【日本がん看護学会】がすでにごん看護専門職者のキャリア開発事業

1. がん看護専門看護師のキャリアデベロップメントを組織的にサポート
アドバンスドセミナーおよび教育セミナーの継続的開催（平成10年より毎年）→ 認定更新単位につながる修了証の発行
がん看護専門看護師による学術交流グループ活動の組織的運営
最新のごん看護の知識と技の集積と、各地域へ発信
がん看護の質向上をめざした実践改革を提言

2. がん看護専門看護師をコアメンバーとした診療ガイドラインの開発と解説資料の作成

＊腫瘍専門医会と連携し実践適用と修正をすすめている。

① 抗がん剤の血管外漏出の予防、早期発見、対処に関するガイドライン
(資料2)

② 解説書：患者版ガイドライン（資料3）
外来化学療法セルフケアキッド（資料4）

4. がん医療に関する相談支援等及び情報提供 （p15）3段落目、4段落目

がん対策情報センターにおいて、引き続き相談支援センターの相談員に対して研修を行うなど、相談支援を行う者を育成していく。

・・・相談支援を行う者を適切に配置することが望まれる。なお、その際には、既に相談に携わってきたがん領域に特化した専門性の高い看護師等の医療従事者や十分訓練を受けた相談員をもつ患者団体等との連携について検討する。

<上記を追記する根拠>

① あるがん専門看護師が過去3年間に対応した相談支援内容（具体例）

年間約170件の依頼（平均支援期間50日<分布1日～250日>）

相談内容は心のケア（精神的支援）のみならず、疼痛などの症状コントロール、治療と生活のバランスを図っていくこと、入退院や治療の場の移行に関して意思決定していくこと、などの頻度が高い。

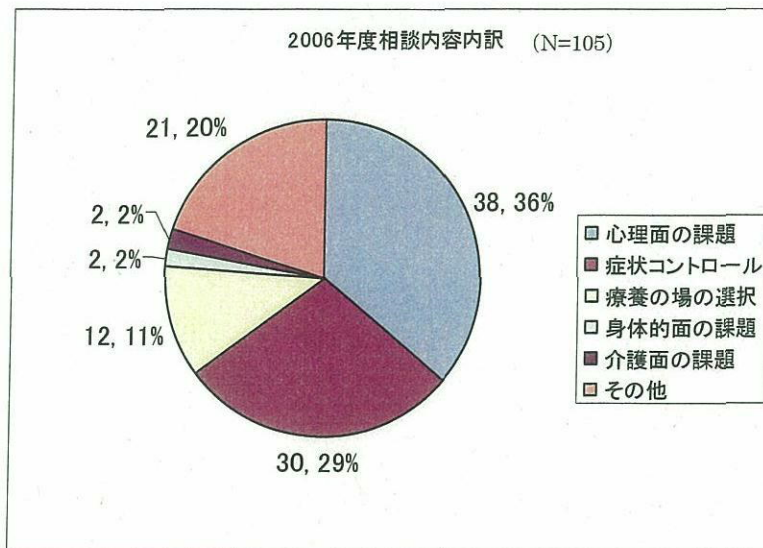


図 在宅緩和ケア支援センターにおける相談内容の内訳

以上からすると、患者や家族は、医師に求めるセカンドオピニオンとは異なる、もっと療養生活に密着した相談、それに対する適切な情報の提供や手立てを必要としている。

また、闘病経験者からの生きた知恵を健康情報として組み入れ、広く活用できるよう健康教育ツールを生み出していける相談支援者が求められている。

上記の能力を備えているがん看護専門看護師が相談支援センターでリーダー的役割を果たすことが望まれる。



告知およびご取材のお願い

報道関係者各位

日本看護協会の

ピンクリボンキャンペーンのご案内



社団法人日本看護協会（会長：久常節子）は、2002年から乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボンフェスティバル」（朝日新聞社、（財）日本対がん協会ほか主催）に後援団体として参加しています。

今年は、「乳がん看護認定看護師」による相談会やJNAプラザでの「乳がん特別企画展」、JNAビルのライトアップなどを実施します。つきましては、キャンペーン内容のご紹介ならびにご取材を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

1. ナースによる乳がんケア相談会

- ★ 日 時：2006年10月7日（土）13：00～16：00
- ★ 場 所：日本看護協会ビル3階JNAプラザ（東京都渋谷区神宮前5-8-2）
- ★ 内 容：乳がん看護認定看護師による乳がん患者への療養生活のアドバイスなど
- ★ 実施方法：①電話での事前申込による予約制。相談内容を確認させていただきます
予約電話番号：03-5778-8547
 ②相談時間は1人30分程度。8～10人を予定。定員になりしだい締め切り

2. 乳がん看護認定看護研修生による街頭キャンペーン

- ★ 日 時：2006年10月7日（土）13：30、14：30、15：30（3回を予定）
- ★ 場 所：日本看護協会ビル前
- ★ 内 容：千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センターの、乳がん看護認定看護師教育課程2期生によるピンクリボンバッジ、啓発パンフレットなどの配布。
マンモグラフィーの受診勧奨や乳がんの早期発見の呼びかけなど

3. 乳がん特別企画展「乳がんには負けないー乳がん看護認定看護師が答えるQ&A」

- ★ 日 時：2006年10月2日（月）～31日（火）10：30～17：00（土・日・祝日は休館）
- ★ 場 所：日本看護協会ビル3階JNAプラザ
- ★ 入 場 料：無料
- ★ 内 容：＜パネル展＞
 - ・乳がん看護認定看護師の役割と専門性の紹介
 - ・全国で活躍する乳がん看護認定看護師（マッピングでの紹介）
 - ・乳がんには負けないQ&A（よくある質問に答えます）
 - ・乳がんの推移、早期発見方法、マンモグラフィーなど
- ＜展示物＞
 - ・啓発パンフレット、がん触診モデル、パットや下着、かつらなど

4. JNAビル クリスタルコーンをピンクにライトアップ

- ★ 日 時：2006年10月1日（日）17：00～23：00（予定）



◆ 乳がん看護認定看護師とは

「認定看護師」とは「ある特定の看護分野において熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護実践のできる者」で、「実践」「指導」「相談」の役割を担います。資格認定には、5年以上の実務経験と6カ月以上の教育が必要です。分野は「救急看護」「ホスピスケア」「感染管理」など17分野で現在、2,486人が認定・登録されています。

今年度は、5つの分野（「訪問看護」「乳がん看護」「摂食・嚥下障害看護」「小児救急看護」「認知症高齢者看護」）において初の認定者が誕生しました（「乳がん看護認定看護師」は20人）。

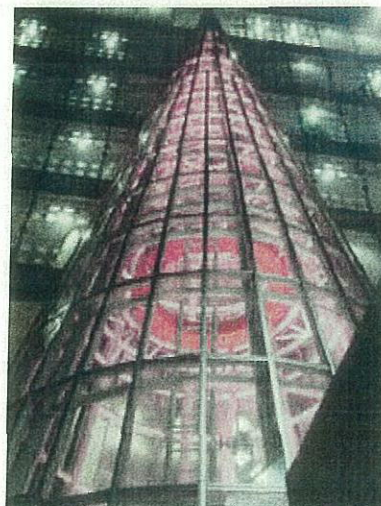
「乳がん看護認定看護師」は、患者と家族への治療にともなう身体的・心理的・社会的サポートはもちろん、治療選択のサポートやボディイメージの変容にかかわるケア、術後のリンパ浮腫予防のための患者教育などを行います。

さらに、乳がん患者に携わる看護師への指導・相談により、実践的・直接的なケアの向上と乳がん看護の普及のためのリーダーとなり、チーム医療の中核になる役割も担っています。

「乳がん看護認定看護師」の他にも、「がん看護専門看護師」をはじめ、「がん性疼痛看護認定看護師」「がん化学療法看護認定看護師」「ホスピスケア認定看護師」が乳がん看護の領域で活躍しています。



JNA プラザでの「乳がん特別企画展」(昨年)



クリスタルコーンのライトアップ (昨年)

◆ 日本看護協会へのアクセス ◆

【住所】東京都渋谷区神宮前 5-8-2 【電話】03-5778-8831(代表)

【交通】●JR山手線「原宿」駅下車、表参道口 徒歩10分

●東京メトロ千代田・銀座線・半蔵門線「表参道」駅下車、徒歩8分

●東京メトロ千代田線「明治神宮前」駅下車、4番出口徒歩5分

<お問合せ先>社団法人 日本看護協会 広報部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2

電話：03-5778-8547 FAX：03-5778-8478

Eメール koho@nurse.or.jp <http://www.nurse.or.jp/>

